

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
鷹田 佳典			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
浅川 達人		明治学院大学 社会学部 社会学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会教育調査実習	MJGa-140701-0	15人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

学生たちは先行研究の整理に始まり、インタビューの質問項目と調査依頼状の作成、インタビューの実施、逐語録の作成、データの分析、論文の作成までを主体的に行った。本年度は受講生が多かったため、3つのグループに分かれて作業を行ったが、いずれの班も積極的に意見を出し合い、分析・解釈を深めていた。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：

男性の育児参加 / 家族、仕事、育児

2. 調査の内容/概要：

(1)育休未取得男性労働者への聞き取り調査から、育児休業制度が人々のニーズに合っているのかについて検討する、(2)多様な働き方をする男性の育児経験について検討する、(3)父子手帳の作成過程や特徴について検討する

3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：

(1)育児休暇未取得男性労働者：昨年度の調査では育児休暇取得男性にインタビューをしたため、(2)中小企業に勤務する労働者や自営業者：多様な働き方をする男性の育児経験を知るため、(3)父子手帳発行自治体：父子手帳の作成過程や特徴を明らかにするため。

4. 主な調査項目：

(1)育児休業制度についての認識、普段の育児参加、育休制度への要望、(2)育児休業制度についての認識、普段の育児参加、育休制度への要望、(3)父子手帳発行の経緯、父子手帳の特徴、自治体としての育児支援

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査)の方法：

いずれも、調査協力者に対し、半構造化面接法に基づく聞き取り調査を実施した。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

インタビューは夏季休業中に実施した。インタビューの場所は喫茶店、調査協力者の自宅、職場であった。調査には毎回、1~4名の学生が参加した (自治体への調査には教員が同行した)。

7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入)：

調査協力者は(1)2名、(2)6名、(3)2自治体 (3名)であった。それぞれ丁寧な聞き取りを行い、多様で質の高い語りが得られた。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：

インタビュー・データはKJ法を用いて分析した。逐語録作成後、意味上のまとまりごとにセグメント化を行い、一行見出しをつけた後、グループ化し、関連図を作成した。それをもとに報告書論文を執筆した。

9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：

(1)育児休業制度が人々のニーズに合っているかどうかという問題の前に、そもそも制度について十分に認知・理解されていない現状が明らかになった。(2)中小企業で働く労働者や自営業者にとって育児休業は、制度はあるものの、有効に利用されていない (制度そのものがない) ことが明らかになった。そのなかでも協力者は、それぞれに工夫を行い、育児に参加していた。(3)父子手帳は父親にとって、育児の入門書のような役割を果たしていた。

10. 報告書刊行の予定と概要：

社会調査実習報告書Vol.31 2015年3月刊行
実習受講生がそれぞれ執筆した論稿をまとめ、報告書を作成した。